

佐賀県鹿島市の小型のクマゼミ（半翅目，セミ科）

Small individual of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae)
in Kashima city, Saga Prefecture, Japan

久保田 信

我国最大級の蝉であるクマゼミ *Cryptotympana facialis*（半翅目，セミ科）は、関東以南に分布する夏季出現種であるが、昨今、和歌山県白浜町では10月下旬頃まで鳴くことがある（久保田，2012）。クマゼミの体長は普通6-7cmほどであるが、今回、筆者がこれまでに遭遇した中で最小個体を佐賀県にて遭遇したので報告する。

2013年8月23日曇り一時雨の日の夕方（18:53）、佐賀県鹿島市JR鹿島駅前に所在するスカイタワーホテルの玄関前の植木に1個体のクマゼミが飛来し止まったのを知人が手で捕まえた。見るとその個体はミンミンゼミほどの大きさだったが、黒色の頭部の幅が広く、翅の色合いなどからも小さいながらもクマゼミであった。この個体は雌で、体長41mm、最大体幅17mm、翅長52mm（図1）であった。そのセミを捕獲後すぐ計測し、逃がした。

なお、参考までに示すと、2013年8月31日に採集した和歌山県西牟婁郡白浜町産の小型の雌でも体長44mm、最大体幅21mm、翅長55mmであった。

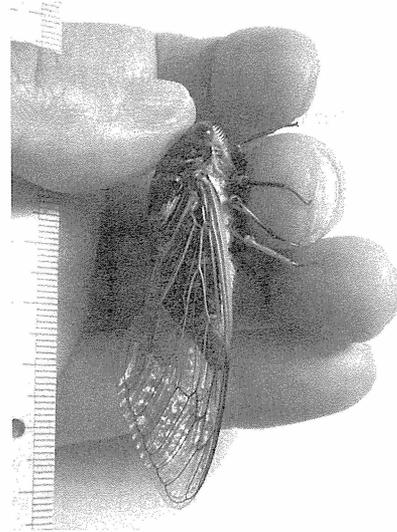


図1 佐賀県鹿島市の大変小さな雌クマゼミ

引用文献

久保田 信. 2012: 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ（半翅目，セミ科）の2012年の遅鳴き. KINOKUNI, (82), 17-18.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所